

## 挑戦2 人と自然が調和する地域社会づくり

### 将来の北薩地域は

地球温暖化対策や循環型社会実現のため、産業廃棄物の適正処理やバイオマス資源の有効活用などの取組により豊かで多様な自然環境、良好な景観が保全・育成され、人と自然が調和する先進的な地域が形成されています。

### 1 地球温暖化対策と地域環境の保全

#### 将来のイメージ

- 地球温暖化対策のための取組が進められ、北薩地域の豊かで多様な自然環境が保全・育成され、人と自然が調和する先進的な取組が進められています。
- ごみの減量化とリサイクルシステムが確立されているとともに、地域産業から出される廃棄物が適正に処理・再利用される循環型の社会が形成されています。

#### 現状と課題

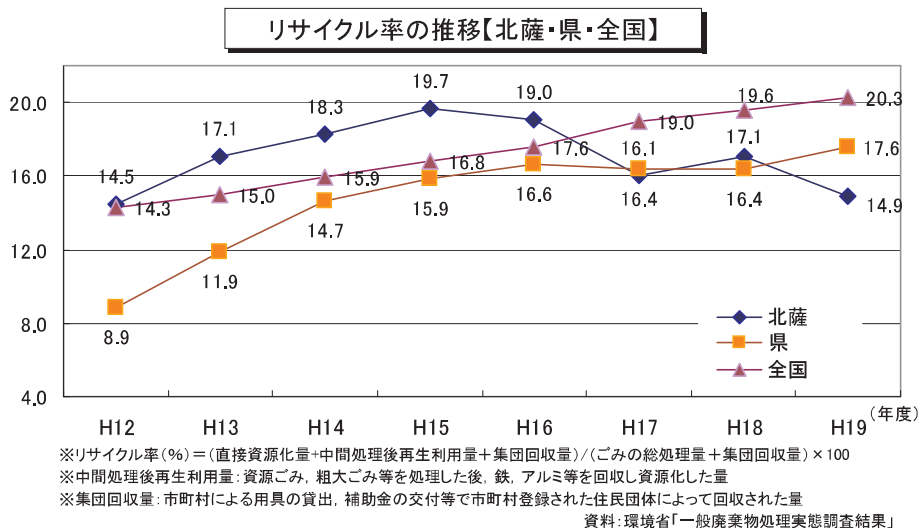
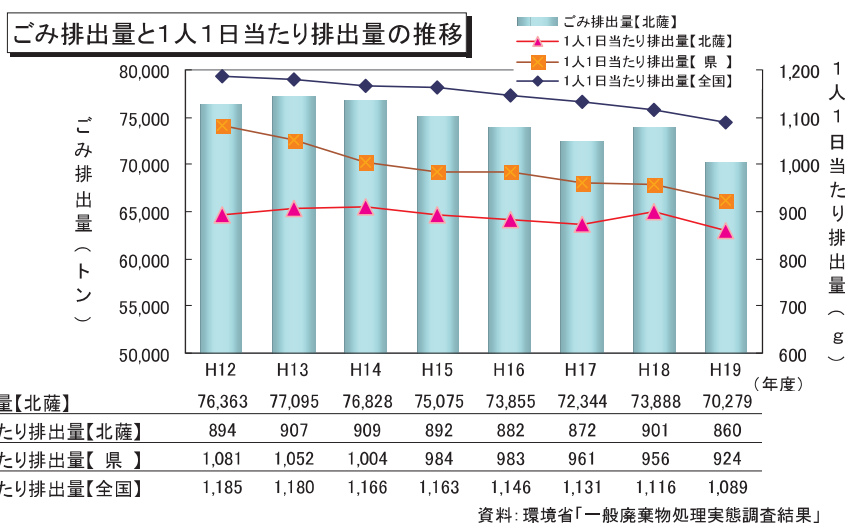
- 地球温暖化問題への認識が深まる中、地球温暖化防止や循環型社会の実現を図るための取組をさらに進めていく必要があります。
- 長島町には25基、甑島には1基の風力発電設備があります。  
今後も環境にやさしい太陽光発電やバイオマスエネルギーなどの新エネルギーの積極的導入を促進する必要があります。
- 県内で初めての公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場の建設予定地があり、今後住民の方々の理解を得ながら整備を進めていく必要があります。

#### 取組の方向性

- 地域の豊かな自然環境の保全・育成、地球温暖化防止、循環型社会の構築に向け、地域住民のより一層の意識向上を図るため、県、市町、関係団体が連携して環境教育を推進します。
- 当地域の豊かな自然環境・文化資源を生かしたエコツーリズムを推進することで、地域振興に資するとともに環境保護を図ります。
- 「ラムサール条約」登録湿地である藺牟田池をはじめ、当地域に残された豊富な自然環境を貴重な財産として次世代に引き継ぐため、自然公園法等に基づく行為規制等を行うことはもとより、地域特性に応じた自然環境の保護・保全

を図ります。

- 地球温暖化の防止に貢献するために、地域住民一人ひとりが高い意識を持って、省エナライフを実践・推進していきます。
- 資源の枯渇問題と合わせて地球温暖化問題の解決のため、太陽光発電やバイオマスエネルギーなどの新エネルギーの導入を促進します。
- 公共関与により、循環型社会の形成や産業の振興等を図る上で必要不可欠な産業廃棄物管理型最終処分場の整備を推進します。
- 清浄な水環境の維持・保全のため、規制・監視の強化や生活排水処理施設の整備等を促進します。



- 20 バイオマス：太陽エネルギーを使って、水と二酸化炭素から、生物が光合成によって生成した有機物であり、持続的に再生可能な資源。
- 21 新エネルギー：太陽光発電や風力発電、バイオマスなど「技術的に実用化段階に達しつつあるが、経済性の面での制約から普及が十分でないもので、石油代替エネルギーの導入を図るため特に必要なもの。」とされている。
- 22 産業廃棄物管理型最終処分場：産業廃棄物の最終処分場は、安定型、管理型及び遮断型の3種類に分けられ

る。管理型処分場は、無害な汚泥、燃え殻等を埋立処分する施設で、埋立地からの浸出水によって地下水や公共水域の汚染を防止するための遮水工（埋立地の側面、底面に遮水シートなどを設ける）、浸出水を集める集水設備や集めた浸出水を処理する施設等から構成されている。

- 23 エコツーリズム：地域の自然環境や歴史文化を体験し、学ぶとともに、それらの保全に責任を持つ観光、余暇活動。
- 24 ラムサール条約：1971年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された。この条約は開催地にならみ、一般に「ラムサール条約」と呼ばれている。日本国内で37箇所登録されているが、当地域では藪牟田池が登録されている。

## 2 バイオマス資源の利用による農林業の振興

### 将来のイメージ

- 家畜ふんを原料にした良質たい肥の施用や鶏ふんの燃焼による発電、焼酎粕を使った家畜飼料など、地域に潜在的に存在するバイオマス資源をエネルギーや生産資材として利用する農業が行われています。
- 未利用間伐材やたけのこ専用林の伐竹材・放置竹材が施設園芸用の加温燃料として活用されているほか、紙の原料・有機質肥料等としての利用推進も図られています。

### 現状と課題

- 畜産や焼酎製造業が盛んであることから、家畜ふんや焼酎粕等の農業への有効利用が求められています。
- 化石燃料である原油の高騰や安定的供給が不透明な社会情勢に対応するため、これに替わるエネルギーとしてバイオマス資源の有効活用が注目されています。
- 未利用間伐材や放置竹林の対策を推進するためには、これらの有効利用が課題です。

### 取組の方向性

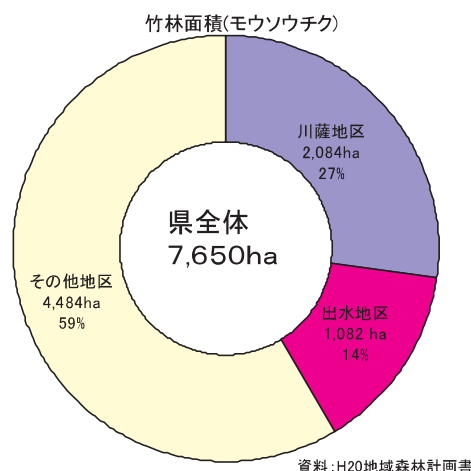
- 家畜ふんを原料にした良質なたい肥等の利用促進により化学肥料の削減を図るなど環境と調和した循環型農業を推進します。

また、豊富な鶏ふんを利用した発電や排熱の有効利用のほか、焼酎粕を利用した家畜飼料の生産を推進します。



バイオマス発電施設（鶏ふん）

- 間伐材、竹材などの地域未利用資源は、園芸用の加温燃料等のバイオマス燃料や、紙の原料・有機質肥料等として利用するなど、安定的に供給する体制を整備し、未利用木竹材の流通システムの確立を図ります。



### 3 地域の特性を生かし景観に配慮したまちづくり

#### 将来のイメージ

- 美しく変化に富んだ海岸線や島，山・川などが織りなす美しい景観，歴史的に貴重な武家屋敷群など地域の特性を生かした個性豊かで良好な景観形成が図られています。

#### 現状と課題

- 変化に富んだ海岸線や島，海・山・川などの自然や人々が営んできた田畑等美しい景観があり，また，武家屋敷群などの歴史的建造物が多く，景観形成に対する意識を高めるための啓発等が必要です。
- 管内の市町は，景観行政団体<sup>※25</sup>になっており，景観計画の策定及び景観条例の制定に向けて取り組んでいます。

#### 取組の方向性

- 公共施設の整備に当たっては，当地域の風土・歴史・文化や生活の営みなど，地域特性に配慮するよう努めます。
- 景観に対する意識づくりを高めるためのセミナーの開催や各市町の景観条例制定に向けての取組を促進します。
- 武家屋敷群などの歴史的建造物等の保存や地域の特徴ある景観資源の保全活用を図り，関係機関や地域等が連携して地域資源を生かした魅力ある景観形成を推進します。

第4章 挑戦すべき課題と取組の方向性  
挑戦2 人と自然が調和する地域社会づくり



出水麓の武家屋敷群



景観に配慮した河川護岸(南川)(さつま町)



沿道修景(長島町)

---

25 景観行政団体: 景観法に基づく景観行政を担う主体。政令市, 中核市, 都道府県は自動的に景観行政団体となっており, その他の市町村は, 都道府県知事の同意により行政団体になることが可能。当地域においては, 3市2町すべてが景観行政団体になっている。